

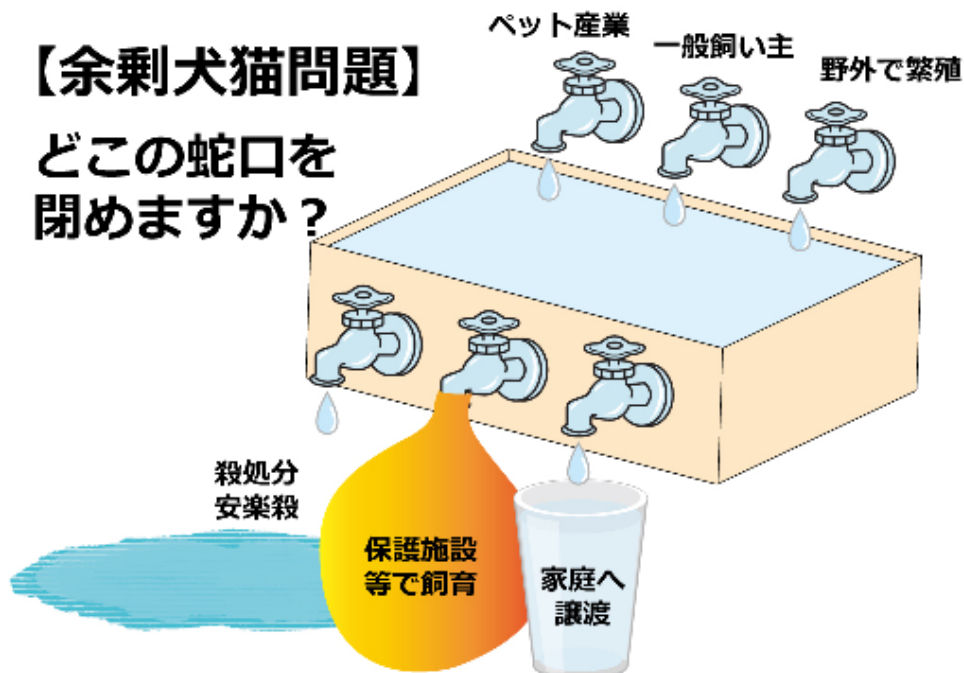
ピース・ウインズ・ジャパン（ピースワンコプロジェクト）
「殺処分ゼロ推進チャレンジ助成」に関する経緯と
助成事業を通じた協働に関してのお願いについて

特定非営利活動法人 人と動物の共生センター
理事長・獣医師 奥田 順之

1. 人と動物の共生センターについて

特定非営利活動法人人と動物の共生センターは、人と動物が共に生活することで起こる社会的課題の解決を通じて誰もが他者を思いやることのできる社会創りに貢献することを理念に活動しています。

特に、人と共に生活する犬猫と人の共生問題に取り組んでおり、主たる活動内容は、「犬のしつけ教室・動物行動クリニックの運営を通じた犬の適正飼育法の普及による、犬と飼い主の関係性問題の解消」、「ペット後見互助会の開発・運営を通じた飼育困難時の受け皿づくりによる、主に高齢化等を原因とした飼育困難への対処・予防」、「シンポジウムの開催、白書の発行を通じた、ペット産業の社会的責任の推進」を行っています。



図にある通り、余剰犬猫問題は、上の段の蛇口（入口／余剰犬猫の発生）と下の段の蛇口（出口／余剰犬猫の処遇）の2つの問題から成り立っています。これまでは、下の段の蛇口に対して取り組む活動が多かったと思います。その結果、多くの地域で殺処分ゼロが実現しました。ここからさらにこの問題を解決していくために、人と動物の共生センターは、上の蛇口を閉める活動、つまり予防的活動を中心に活動を行っていきます。

2. これまでの経緯

ピースワンコプロジェクト様（以下：ピースワンコ様）の活動については、2016年にファンドレイジングの事例として紹介を受けたことをきっかけに、HP等を拝見させていただいておりました。

2016年12月頃から、ピースワンコ様の活動について、SNS等を通じて批判的な記事を散見したことを通じて、より注目して、活動を拝見しておりました。この時点で、今や日本最大の保護団体となったピースワンコ様の発信力について、社会に大きな影響を与えており、日本の人と動物の共生にとって、最も大きな影響力のあるプロジェクトの一つであると感じていました。と同時に、多くの批判的意見と同じように、不妊去勢を施さないこと、大量飼育という活動方針について、私自身、疑問を持っておりました。

同時期に、ファンドレイジングに関係する知人から、ピースワンコ様についてどう思うかという問い合わせがあり、「不妊去勢を施さないこと、大量飼育という活動方針は問題を感じると同時に、検討の余地があると思う」という回答をさせていただいております。

2017年2月、活動を拝見させていただいていたところ、殺処分ゼロチャレンジ推進助成の公募が開始されたことを知りました。募集要項の中には、『本助成事業の支援先団体は、単なる資金支援先という枠を超えて、殺処分ゼロを日本で実現するための大切なパートナーであると考えています』との記載があり、社会的影響力のあるピースワンコ様との協働を進めることは、当団体の理念実現に大きなプラスになると考え、申請することを決めました。

同時に、活動方針について疑問がある部分については、協働を進める中で、対話を行いたいとも思っていました。対話を進めることで、ピースワンコ様の理念実現（日本において犬猫の殺処分ゼロを継続的に実現する）のためにも貢献できると考えていたからです。

申請時点では、殺処分ゼロという言葉の解釈として「全ての犬猫を保健所等の行政施設で殺さない事」であると解釈しており、その考え方についても、当法人の「殺処分される犬猫を発生させないように予防に力を入れるが、動物福祉の観点から見て、安楽殺が妥当な場合も少なからず存在し、ゼロをことさらに求めるべきではない」という考え方と全く一致しているものではないと考えておりました。しかし、そうした差異によるコミュニケーションの齟齬やリスクもあろうかとは思いましたが、むしろ対話を進めることで、協働の価値を高めることができると判断し、申請に至りました。

2017年3月、ピースワンコ様への公開質問状が提出され、ピースワンコ様からも回答が寄せられました。活動方針への批判と言う問題が大きくなっていることを感じました。申請事業を採択いただくことで、批判されている活動方針を当団体が肯定しているように受け取られることで、当団体も批判されるリスクがあることを感じましたが、それよりも協働の価値の方が高いと感じておりました。

2017年4月、採択いただくことができ、通知を受け取りました。助成金額は600,000円とのことでした。採択にあたり、助成団体同士の交流やピースワンコ様プロジェクトとの意見交換の場等を設けていただくこと、助成団体同士で今後の日本の人と犬の共生の在り方を考える場を設けていただくことなどをメールにて提案しました。提案させていただいたような取り組みの中でより対話を進めていくことが全体の発展につながると考えておりましたし、ピースワンコ様の社会的な発信力を鑑みれば、全国の団体や日本全体の考え方を形作っていくことに大きく貢献することと思った次第です。

2017年5月、週刊新潮の記事が掲載され、活動方針への批判と言う問題がさらに大きくなっていることを感じました。同時期に、私のFacebook上に、ピースワンコ様からの助成を受けていることに関する質問をいただきました。質問をいただいた方とのやり取りを通して、改めて、複数の団体・個人から批判されている活動方針を持つピースワンコ様との協働を進めることが、当団体とピースワンコ様双方を発展させ、人と動物の問題解決の近道になるのかどうか検討すべきであるという考えに至り、理事会に諮って今後の方針を固めることとなりました。ピースワンコ様へその旨を説明したところ、快く、理事会までお待ちいただけると回答いただきました。

3. 当団体の考え方

ピースワンコ様との協働を進めるか否かの方針を決めるための判断基準は、それが人と動物の問題解決の近道になるかどうかであると考えています。

日本の保護活動において、ピースワンコ様の活動方針と、質問状を提出している団体様の活動方針には食い違いがあります。当団体に質問をいただいた方からは、「助成を受けることでピースワンコの活動方針を当団体が肯定することになる」と指摘いただいています。

しかし、そもそも、ピースワンコ様の活動方針と質問状を提出している団体様の活動方針の 2 項対立の構図で考えることそのものが、人と動物の問題解決の妨げになっていると感じています。本来ならば、同じ人と動物の問題解決を目指す団体同士で、オープンなディスカッションを行い、日本全体の保護活動に関する指針について検討していくべきであると、当団体は考えています。

当団体は、保護活動を直接実施しておらず、対処よりも予防を中心に考えるべきという方針で活動しております。そうした背景からも保護活動への考え方を問われれば、質問状を提出している団体の皆様に近い考え方を持っており、保護された動物については、出来る限り避妊去勢手術を実施すべきと考えておりますし、大規模収容施設だけでなく、野外繁殖を抑えるための避妊去勢手術の実施という予防的措置にも相当の予算をつけるべきであると考えています。

とはいえ、必ずしもどちらが正しいという話ではないとも考えております。トレーニングの分野でも一時期正しいとされた「 α 理論」は、現在多くの動物行動学者によって、犬の理解として正しいものではないという見解が示されています。何か全て正しいという事はないというのはどの世界でも同じだと思えます。

当団体は、どちらかが正しくて、どちらの陣営に与するかという様な、二項対立の考え方には賛同しておりません。そうではなく、対立する意見があることを尊重し、オープンなディスカッションを行うことで、日本全体の動物保護活動の未来を、皆で考えていくべきと考えております。考える場がなければ、議論を深めることは出来ず、全体的な結論も見出すことはできないと考えています。

質問状や週刊新潮に関する経緯について、質問状を提出している団体様の HP から拝見いたしまして、これまではオープンなディスカッションを行うことはかなわなかったかと理解しております。今回問題が大きく取り上げられたから

こそ、その準備が整いつつあるのではないかと感じております。当団体は、ピースワンコ様は、日本の動物保護活動に最も大きな影響力のある団体であると考えております由、是非、日本全体の保護活動の発展の為に、有意義な意見交換の場を設定し、実施いただければと考えております。また、当団体を含む別の団体がそうした場を設定した際には、是非ご参加いただきたいと考えております。もし、ピースワンコ様が是非に実施したいとおっしゃっていただけるのであれば、当団体の方で場を設定させていただきたいと考えております。

4. 今後の助成事業・協働に関するお願い

当団体は、このような考え方を持っている団体でございますので、ピースワンコ様にとって協働先として、パートナーとしてふさわしいかどうか、今一度ご検討いただいた方が良いのではないかと考えております。もし、ピースワンコ様の協働先として、ふさわしくないという事をご判断された場合は、助成事業については、大変なご迷惑と承知はしておりますが、辞退させていただくしか方法がないかと考えております。

逆に、当団体がピースワンコ様から助成を受けるか否かの判断には情報が足りないと考えております。判断の為に必要な情報として、ピースワンコ様が、当団体の考え方に対して、どのような見解をお持ちか、教えていただきたく存じます。見解をお伺いした上で、助成を受けさせていただくか判断したいと考えております。

協働を進めていく上では、双方の信頼関係は最も重要な要素であると考えています。しかし、これまでメールのやり取りのみで、ピースワンコ様のご担当者様とお会いしてお話することもなく、進めてきてしまいました。そこで、一度、ピースワンコ様を訪問させていただき、ご担当者様との本件についての意見交換をさせていただければ幸いです。直接お話させていただくことで、信頼関係を作り、今後の協働の発展につながればと考えております。

当団体の考え方に対してのご意見や、双方が協働先としてふさわしいと合意できるかどうかについてもその際にご意見交換できればと考えております。特に、上記の「オープンなディスカッションを通じて、日本の動物保護活動の未来を皆で考える」と言う部分について、日本の保護活動のリーダーとして是非取り組んでいただきたいと考えております。

5. さいごに

助成事業に採択いただいたにも関わらず、ご面倒とご迷惑おかけし、また大変不躰な文章をお送りすることとなり、大変申し訳ございません。上記のとおり、一度ご担当者様と面談の時間をいただければと考えております。お手数お掛け致しますが、何卒ご対応いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

尚、複数の方からお問い合わせいただいていることから、本資料に関しましては、当団体の認識として HP 上に公開する予定でおりますので、ご了承ください。